

テーマ

外国人学生と日本人学生が共修する 海外日本語教育実習

適用
分野

日本語教育学、教育学、
異文化間コミュニケーション



研究
名称

外国人学生と日本人学生が共修する海外日本語
教育実習における教師の成長

氏名
所属

野々口ちとせ 准教授
文学部 日本語日本文学科

内容

●本学海外日本語教育実習の特徴

甲南大学日本語教員養成課程では、台湾東海大学と本学の学生がチーム・ティーチングで共に教師役として教壇に立つ海外日本語教育実習を実施しています（2021年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、オンライン授業による実施）。この実習デザインは、日本語教育が戦前の植民地統治に積極的な役割を果たした歴史を踏まえ、「外国人＝日本語を学ぶ人」「日本人＝日本語を教える人」という役割概念の固定化を避けるために採用されました。甲南大学と台湾東海大学の実習生が協働で教師役を担い、台湾在住の一般の方々及び東海大の学生を対象とした日本語教育を実践することが本実習の第一の特徴です。

この実習の第二の特徴は、本学学生が台湾という「外国」に暮らす体験による学びです。短期間ではありますが、本学の学生が海外での生活を通して、自分の母語母文化とは言語文化の異なる地域に暮らすときのストレスや課題とその克服、ホスト国の人々との交流の重要性などを学ぶことができると考えられます。

●研究内容

本研究では、左記の教育実習で実習生が何についてどのように学んでいるかを記述・分析することで、外国人学生と日本人学生が共修する海外日本語教育実習での学びの特徴を明らかにすることを目指します。

具体的には、実習生に内省レポートや実習報告書を作成させ、それらの分析を通して実習生が何についてどのように考えているかを追跡・記述します。この分析にはテキストマイニングの手法が利用できるかもしれません。

また、実習前と実習後に個人別態度構造(PAC)分析を実施し、実習生の意識の変容を明らかにすることも計画しています。



台湾東海大学での教育実習

研究者URL <https://researchmap.jp/nonochito>

キーワード

共修、教育実習、教師の成長、海外実習、内省、テキストマイニング、PAC分析

連携方法

講演 研修 研究相談 学術調査 コメント 共同研究